



どうせ働くなら楽しい方がいい。

宇和島市 地域おこし協力隊

水野 裕之



地域おこし協力隊になるまで

私は、平成30年2月、宇和島市九島地区の地域おこし協力隊として着任しました。

前職はホテル業で、全国を転勤する生活をしていました。そんな私がなぜ地域おこし協力隊になったのか、理由は大学時代までさかのぼります。

当時、21歳の私は「将来は飲食店をしたい」と考えていました。ただ私がしたいお店は飲食だけではなく、他にも楽しいと感じて貰う何かがある。そんな場所にしたかったのです。ただ、その方法が分からなかった私は、現場でイベントの企画をたて実施までできると説明していたホテルに入社をしました。その企画を考え実行する経験は私の将来の夢に活かせるのではと考えたのです。

前職での沢山の出会いと経験を経て、今思うのは「また来たいと感じる場所」

を飲食店という手段で作りたいと考えています。その為には、食材、景色、場所も重要ですが、何よりも人が一番大事だと私は思います。人との良い出会いがあったとき、また会いたくなり、また来たいと感じます。九島にはそれがあって感じて移住しました。今は地域おこし協力隊という機会を活かして将来の夢を実現するために日々取り組んでいます。

着任してから

最初に活動の方向性を決めました。九島でも人口減少という課題があります。その為にはまず九島に来てもらう事、そしてまた来たいと感じてもらう事が重要だと思えます。知りたい島、行きたい島、住みたい島と繋がっていく活動にしていこうと必要です。

九島でコンテンツを作り、かつ人と人のコミュニケーションを通して九島の特色に触れ、他では体験できないものにしていこうと決めました。

そして「九島にまた来たいと思ってもらう事」を目標に取り組んでいくことにしました。

これまでの活動

着任後、九島の認知度が愛媛県内でさえも低いという事実を知りました。当然県外の方はほとんど知りません。



マルシェ

そこで九島の認知度を上げるため、東京のマルシェにて九島柑橘の販売をしました。

他の柑橘類と差別化をする為、あえての枝と葉っぱ付きで収穫し九島ロゴのタグを付けました。更にタグの裏面には